

大鹿スケッチ

2010
葉月
前志満くみ
第17号

暑中お見舞い申し上げます。

「猛暑」、「酷暑」あまりの暑さに今年は「激暑」なる言葉もでてきました。熱中症、熱射病で命を落とされる方、病院へ搬送される方列島続出。大鹿村ではこのように暑さによって体調を崩すことを「陽気を食う」と表現してきました。「うちの」と「まは食事をとらっ」陽気はつかくつとしてしまうが「いわ」とこのように使います（注：体調を崩されている方には優しくしてあげてください）長年自然と向き合ってきた暮らしてきた人々の自然界への畏敬の念が伝わってきます。大切なのは全体のバランス。環境と共生することを忘れず左、カエルちゃんのように熱中症対策をばっちりとして今年の長い夏を乗り越えてください。



大鹿HeatBeat

第14回 ~ 大鹿の人々
紙谷 正 さん (84)



「紙谷さんはよく陽気をくわっ、朝から晩までよく働けますね～」

「そう、気持ちの問題な～紫外線がよけにくいじゃないと夏はやっとなにっ！」
大体の人は気を強く持っても体がついていかないものですが・・・その持久力！凄まじいばかりです。畑では、きゅうり、かぼちゃ、なす

そして、オクラが収穫の時を迎えています。今年、沢山育てたキャベツは長雨と激暑で腐ってしまったものも多数。そんな中、7月29日「夏蚕」のおやといが終わりました。御蚕様も陽気をくうよう育てが悪く、

頭数が例年より3分の1ほど少なくなりました。29日は久々のお湿りで御蚕様もほっと一息。一斉に箱に上り始めました。



ふと足元をみると、バンクーバーオリンピック女子フィギュアスケートの特集新聞記事が掲げられています。しかもカラー。銀板を舞う美しい乙女たち・・・ここでもまた「涼」と「目の保養」を確保しながらお仕事に勤しむ紙谷流儀をうかがい知る事ができます

飯田・下伊那 8月のイベント情報

●飯田人形劇フェスタ 2010

5日(木)～8日(日)

●阿南町和合の念仏踊り

13日(金)～16日(月)

●2010大鹿夏まつり花火大会

14日(土)

●阿智村満蒙開拓歴史展

21日(土)～29日(日)

●阿南町早稲田人形浄瑠璃

22日(日)

～季節の大鹿弁～「しらしらあけ」「めそめそ」

「お暑いこととありますナン」「ほんにお暑いこととありますナン。こ～お暑いとしらしら明けのころと、めそめそ時にしか畑にてたてませんナン」「そうとありますナン。昔は今時分に草むしりが間に合わんで背中みのをしよってお天道様が高くなつて畑に出てたけ一ど、昔とは暑さがずいぶん違うでね。」「そ～なお互いに気をつけんと。それにしてもしらしら明けのころ畑に立つと東の空がだんだんと明るくなっていくののきれいなこと！そのうち、虫や小鳥がだんだんと起きだして賑やかくなってくるんだに。もうじき都会の親戚衆がくるでみせてやりたいなん」「ふんとな。めそめそのころもおい～じゃないの。こんだあ西の空が何ともいえずおいしいナン」「しらしらあけ」日が昇る前から日の出前の時間帯をさしてつかう「めそめそ(時、頃)」日が沈みかけあたりが見えるか見えないかの頃



大鹿村鹿塩中峰でまんまる農園を営まれている中野比呂樹さん、真希さん楓くんファミリーを訪ねています。畑2反、田んぼ3畝は自宅から歩いて10分程の「するぎ農場」で借りています。何件かの農地が密集し見晴らしの良いこの地籍は、南北朝の頃、香坂高宗が領地を守るために村内各地に建てた山城の跡地の一つです。農地の一角には「するぎ城」を再現した見晴らし台が立っています。畑には真っ赤に色づいたトマト、きゅうり、

なす etc 大地の恵みをぐっと吸収した夏野菜が収穫の時を迎えています。まんまる農園ではできる限り自分たちの目の届く範囲で、特別なものではなく生活により近いものを使って、自然に選んでいけるような野菜作りをモットーとしています。もちろん無農薬、有機栽培です。化学肥料は見た目のいい野菜は作れても、苦みを伴ってしまい、おいしい野菜にはならないといえます。大鹿の大地を生かしてきた先人たちは馬や牛、家禽の糞をこまめにすき込み、秋には枯れ葉をかき集め、春先までの作業として山や河原の水はけのよい土を運んだといえますから、まさに温故知新です。土にたどりつくと食も変わる…まんまる農園では動物性たんぱくを一切使わないケーキやパンも販売しています。真希さんお手製のキャロットケーキは、しっとりもっちりやさしい甘さ。動物性スイーツは、おいしいのは確かですが、アレルギーを持つ人はもちろん、命のエネルギー分量が高いので体にかかる負担も大きくなるという観念(個人的な感覚だが例えば、焼き肉などで複数の種類の肉を摂取すると疲れませんか？いろんな種類の命が入りすぎて...)から近年、パクパク食べても安心できるもの「植物原料100%スイーツ」が見直されています。物質社会に育ち選択の余地のなかった70年代生まれ。悟りの年代といわれる80年代生まれ。後者は特に自ら選択し、「土」に向かい始めています。彼らは、土の上で暮らすと頭で考えない分、自然な感覚を取り戻せることに気づいています。生きることに必要なことを一つ一つ丁寧に確認しながら手繰り寄せています。



パソコンをお持ちの皆様へ

「右馬允だより」「大鹿スケッチ」のデジタル配信が可能になりました。先月号よりご希望の方にお送りしています。利点としては、使用用紙の削減、情報のコンパクト化、「大鹿スケッチ」に関してはカラー写真でより鮮明にご覧いただくことができます。デジタル配信希望の方は下記までご連絡ください。
umanojyou@hotmail.co.jp 引き続き郵送もさせていただきます。

ぼくたちの畑は、
標高千メートルの山の中。
周りには
田んぼに
みどり豊か
とこころです。
昼と夜の
実、暖の差が大きく、
だから野菜たちは、
味の濃や、たくましく
育んでいます。
去月、いきます。
形のそろったものは、いけれど
ひとこと、味のある
エネルギー、ふりの
新鮮なお野菜を
お届けします。

まんまる農園
call/fax 0265(39)2575
安心おいしいお野菜を心がけて
無農薬有機肥料で育てます。